

生活援助実習

単位数（時間数）：1 単位（45 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：教授・永井睦子、助教・野中みつ子、助教・山田英子
助手・新沼綾子 他

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽
科目記号：49

■ 授業概要

病院で療養生活を送る患者を受持ち、患者との援助関係を築き、その過程と療養生活環境を理解する。そして、対象者との関りから療養生活に必要な援助とその必要性を明らかにし、学内で学んだ日常生活援助の基礎となる知識と技術を活用し、個々の日常生活のニーズの充足やセルフケアを促すための援助を実践する基礎的な能力を養う。

■ 到達目標

1. 患者の健康や生活、心情に関心を向け、援助的関係を築くよう努力できる。
2. 患者に必要な日常生活の看護援助を考え計画し、それをもとに指導者とともに実施できる。
3. 看護職を目指すものとしての基本的な態度を養うことができる。
4. カンファレンスにおいて自分の意見を発表し、意見交換を行うことができる。
5. 看護学生としての社会的行動(他者への尊重、守秘義務、協調性、責任感)をとることができる。
6. 実習を通して自己を振り返り、今後の学習の方向性や看護について考える。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

安全・安楽・自立・自律、生活環境、日常生活行動、援助技術、倫理的配慮

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

月・日（曜日）	授業内容・授業方法	担当
令和 8 年 1 月 23 日（金） ～ 2 月 6 日（金） （2 グループに分け、 1 週間ずつ実施）	<実習方法> 1 名の患者を受け持ち、看護師とともに看護援助をする中で、主に日常生活について行われている援助およびその方法について考える。	共同

■ 履修条件

「実習科目の履修要件」に以下の条件を加える。
生活援助技術論の授業に3分の2以上出席していること。実技試験に合格していること。

■ 成績評価方法

実習評価表をもとに、実習内容、実習記録、実習まとめレポート、実習態度等により総合的に行う。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・実習記録は、実習中に学生個々の進度に合わせてながらフィードバックを行うとともに、実習終了後コメントを付して返却する。
- ・実習のまとめレポートは、実習最終カンファレンスにおいて発表し、臨地実習指導者よりフィードバックを受けるとともに、実習終了後コメントを付して返却する。

■ 教科書

実習オリエンテーションや事前学習の際に実習担当教員より提示する。

■ 参考書・参考資料等

実習要項：共通要項、看護学実習要項（1年生）
参考資料：実習オリエンテーションや事前学習の際に実習担当教員より提示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

看護学実習要項（1年生）を参照のこと。
実習開始前には、1日の行動計画を立案するために実施する看護援助について復習（45分）
実習終了後は、その日の振り返りと翌日の援助を実施するための準備学習（45分）

■ 担当教員からのメッセージ

事前学習用紙をもとに、テキストや参考図書で事前学習をしてもらうこと。また、自主練習時間を活用して看護技術の復習をすること。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

臨地で随時対応します。

実習オリエンテーションの際、担当教員の連絡先を提示します。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師、助産師、保健師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

他職種連携：医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士等

■ 実務経験を活かした教育内容

病院や施設での看護師、助産師、保健師の経験を踏まえ、病院での実習指導を行っています。